

大韓民国国立洛東江生物資源館—滋賀県立琵琶湖博物館 2026 定例会議を開催いたします

概要

- ・令和8年9月15日(火)から9月17日(木)にかけて、大韓民国国立洛東江生物資源館(NNIBR)から館長をはじめとする8名を招聘し、研究交流に関する機関長会議および合同セミナーを開催します。
- ・9月16日(水)の機関長会議では、相互協力協定(MOU)更新に向けて実施する署名式をメディア公開いたします。

詳細

定例会議開催日：令和8年9月16日(水)

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館セミナー室

主な内容：機関長会議(9:00~12:00)

- ・2回目となるMOUの更新
- ・生物標本の交換に関する合意書の取り交わし
- ・今後の企画展示、研究活動での相互協力の確認
- ・MOU更新署名式(11:00~12:00、メディア公開)

合同セミナー：標本の重要性と可能性 13:00~15:50

【発表内容】

- ・保全分類学：保全生物学における新たな分野—淡水生態系の保全に向けて—
滋賀県立琵琶湖博物館研究部主任学芸員 川瀬成吾
- ・Production and Utilization of Digital Images of Freshwater Biological Specimens in NNIBR(NNIBRにおける淡水生物標本のデジタル画像の作成と活用)
大韓民国国立洛東江生物資源館生物標本保存部専任研究員 李承賢
- ・限界を超えるミュージアム DX—琵琶湖博物館における3Dモデル構築とその活用
滋賀県立琵琶湖博物館研究部主任学芸員 妹尾裕介
- ・From order to species: Expanding AI-based taxonomic identification using digital images of freshwater biological specimens (目(Order)から種(Species)へ：淡水生物標本のデジタル画像を用いたAIベース分類可定の拡張)
大韓民国国立洛東江生物資源館生物標本保存部専任研究員 金志秀



大韓民国国立洛東江生物資源館でのMOU調印式
平成29年(2017年)4月21日

その他

- 大韓民国国立洛東江生物資源館について

韓国、慶尚北道にある国立の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、培養、遺伝的特性、生理活性、産業化などの研究を行っています。また、これらの内容に関連した様々な動物、植物、微生物の展示や教育プログラムの開発および生物試資料の提供を、韓国国民を対象に行っている機関でもあります。

- これまでの主な両館の交流

- ・平成 30 年度：日本学術振興会二国間交流事業 共同研究・セミナー「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷」

- ・平成 31 年度：第 27 回企画展示「海を忘れたサケ・ビワマスの謎に迫るー」における NNIBR からのサクラマスに関する情報・資料や研究成果の提供

※コロナ禍で一時中断し、2023 年度（令和 5 年度）より対面交流を再開

【参考情報】

- 琵琶湖博物館における国際交流・MOU 締結について

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化しています。

- ・主な協定内容

- ①研究者等博物館職員の交流

- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流

- ③専門技術や方法論に関する情報交換

- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）

- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

- 現在、締結中の相互協力協定先

【海外】

- ・ロシア・バイカル博物館

- ・北マケドニア・国立オフリド水生生物研究所

- ・大韓民国・国立洛東江生物資源館

【国内】

- ・京都大学野生動物研究センター

- ・地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所